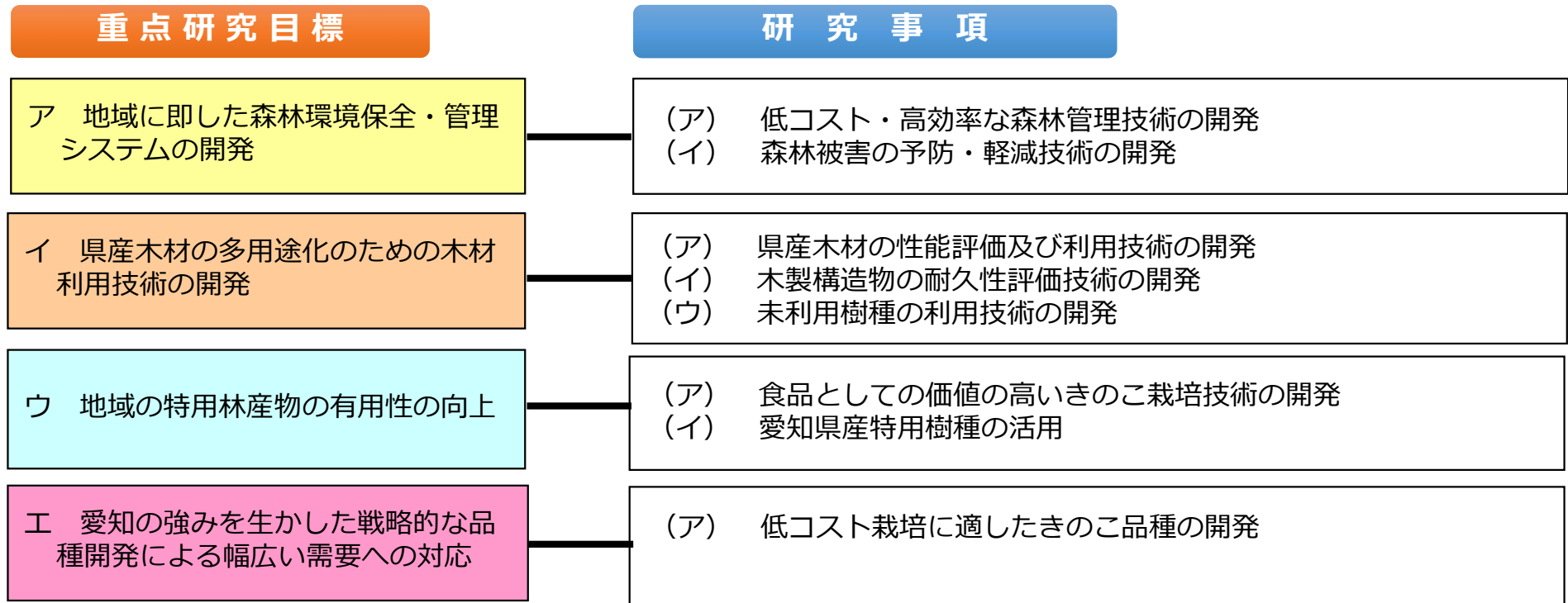


愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020
最終評価について

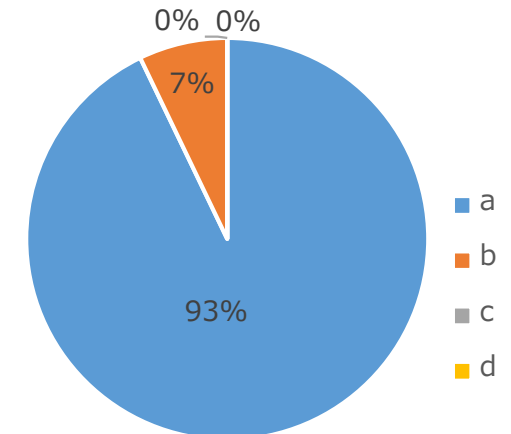
【林業部門】

試験研究基本計画2020 最終評価【林業部門】



○最終評価の概要

重点研究目標	最終評価					試験研究基本計画2025の取扱い				
	a	b	c	d	計	継続	見直し	終了	中止	計
ア	13	1	0	0	14	6	0	8	0	14
イ	8	1	0	0	9	0	0	9	0	9
ウ	3	0	0	0	3	0	0	3	0	3
エ	2	0	0	0	2	0	0	2	0	2
計	26	2	0	0	28	6	0	22	0	28



最終評価達成度 a: 達成できた (100%以上) b: 概ね達成できた (80%以上100%未満)
c: あまり達成できなかった (50%以上80%未満) d: 達成できなかった (50%未満)

重点研究目標	主な研究成果・普及の状況	基本計画2025の取扱い
ア 地域に即した森林環境保全・管理システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ苗生産において、スギの挿し穂を直接コンテナに挿し付けて育苗期間を短縮する技術を開発し、苗木生産現場へ技術の普及を図った。 ・簡易な森林資源量評価手法として、愛知県版スギ・ヒノキ細り表を作成し、スマートフォンアプリとして公表し、林業現場において活用を図った。 ・伐採跡地の森林回復の判断基準となる「天然更新による森林造成可否のチェックシート」を作成・公表し、伐採届の申請・審査等において活用を図った。 ・インターネットを活用した森林被害地点やシカ等の生息状況を確認するシステムと、出現場所を予測するシステムを開発し、ホームページ等で公表し、森林被害の予防・軽減に役立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セルトレイ等を活用した効率的なコンテナ苗生産手法を開発する。 ・目標を達成したため終了。 ・目標を達成したため終了。 ・ICTを活用した有害獣の被害軽減手法を開発する。
イ 県産木材の多用途化のための木材利用技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・県産スギ・ヒノキの材質特性を明らかにし、横架材のスパン表を記載した「愛知県産材利用の手引き」を作成・公表し、県産材の利用促進を図った。 ・木製建造物の劣化状況を調査し、耐久性（健全度）の判定基準を明示した「木製土留工維持管理の手引き」を作成・公表し、治山事業における設計や維持管理に役立てた。 ・立木段階における応力波伝播速度を測定することにより、製材後の強度等を予測する技術を開発し、ホームページ等で公表し、技術の普及を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したため終了。 ・目標を達成したため終了。 ・目標を達成したため終了。
ウ 地域の特用林産物の有用性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・エリンギの食品としての価値を高めるため、食感（硬さ）のある子実体（きのこ）を発生させる最適な栽培条件を品種ごとに明らかにし、生産者へ成果の普及を図った。 ・ヤナギマツタケについて、発生時に巻筒型の資材をビンに設置することで、食感の良い柄の部分が長くなる技術を開発し、生産者へ成果の普及を図った。 ・カエデ類の樹液の流出特性を把握し、メープルシロップ生産の有益性を明らかにし、生産技術の普及と商品化に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したため終了。 ・目標を達成したため終了。 ・目標を達成したため終了。
エ 愛知の強みを生かした戦略的な品種開発による幅広い需要への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・エリンギについて、従来品種に比べて害菌に強く、栽培時の適温が従来の15℃よりも12～18℃と幅広く、低コスト栽培に適した新品種を開発し、生産現場での実証を行い、普及を図った。 ・ヤナギマツタケについて、欠点であった胞子の付着による日持ちの悪さを改善するため、無胞子の新品種を開発し、生産者へ情報提供及び普及を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したため終了。 ・目標を達成したため終了。

ア 地域に即した森林環境保全・管理システムの開発
(ア) 低コスト・高効率な森林管理技術の開発
目標：コンテナ苗等を利用した低コスト造林手法の開発

○研究内容・成果

- ・循環型林業を推進するため、コンテナ苗生産の効率化に向けて、スギの挿し穂を直接コンテナに挿し付けて育苗期間を短縮する技術を開発した。
(育苗期間：従来2年→1年短縮)

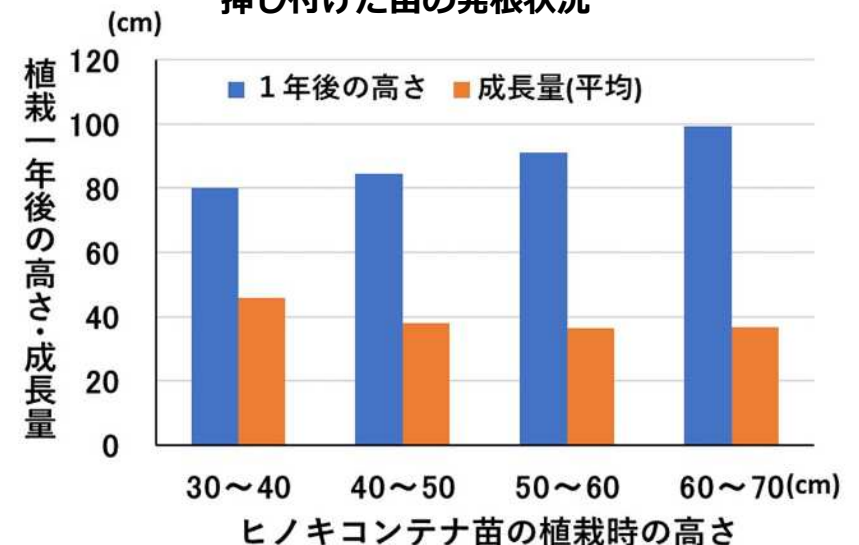
- ・植栽後の保育（下刈）経費の軽減に向けて、コンテナ苗の高さの違いによる植栽後の成長量等を調査した結果、1年後の高さは、大きな苗（60～70 cm）ほど高く、丁寧に植栽すれば大きめな苗でも倒伏せずに低コスト化を図れることが明らかとなった。

○研究成果の普及

- ・苗木生産現場において、挿し穂の直挿し技術の普及を図っていく。
- ・コンテナ苗生産の効率化に向けて、セルトレイ等を活用した育苗期間を短縮する生産技術の開発を行う。



挿し穂を直接コンテナへ挿し付けた苗の発根状況



イ 県産木材の多用途化のための木材利用技術の開発
 (ア) 県産木材の性能評価及び利用技術の開発
 目標：スギ・ヒノキのスパン表作成

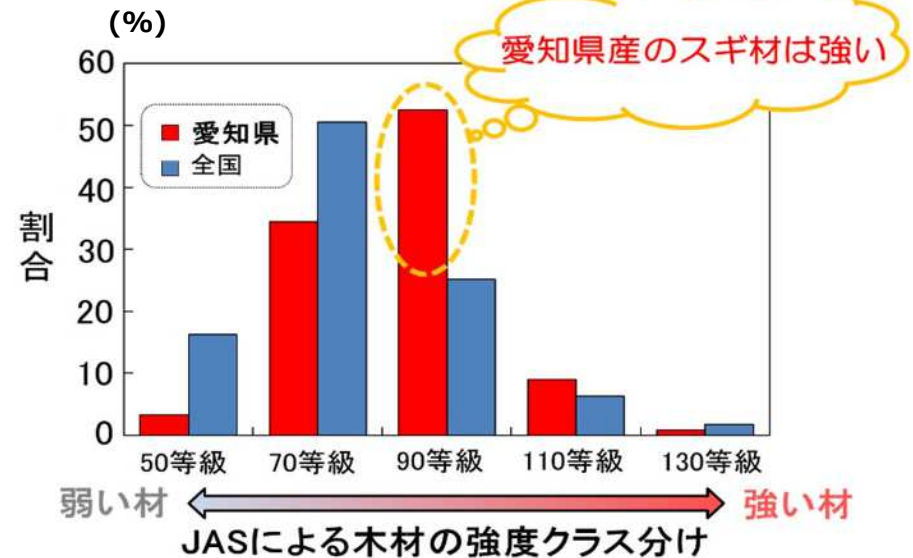
○研究内容・成果

- ・ 県産材の利用促進を図るため、県産スギ・ヒノキの材質特性を調査した結果、県産スギは全国平均に比べて高い強度を持つことが明らかとなった。
- ・ 県産スギ・ヒノキの強度試験結果を基に、一般住宅建築での県産材の利用促進に向けて、横架材のスパン表※を作成し、「愛知県産材利用の手引き」として公表した。

○研究成果の普及

- ・ 愛知県産材利用の手引きの活用に向けて、説明会等を開催し、建築士等にPRして県産材の利用促進を図っている。

※スパン表：木造建築において、梁や桁等の寸法や距離（スパン）を決定するための早見表のこと。



愛知県産材利用の手引き